

○ 質問番号 1 番 市長公室関係（市長答弁）

・ 議席番号 1 6 番 吉岡中学校 古川 純也 議員
生徒とのハートフル・ミーティングについて

・ 議席番号 2 4 番 大幡中学校 高野 遥 議員
市立女子高校跡地への学校誘致について

古川純也議員さん、高野 遥議員さんの質問にお答えします。

今回、古川さんと高野さんからいただいた質問は、私の政策提言、いわゆるマニフェストに載せてある施策に類似点がありますので、そのことについて、お話ししたいと思います。

マニフェストという言葉は、皆さんも何かの機会に耳にしたことがあると思うのですが、そもそも、選挙のときに、立候補者が有権者に対する約束事として定着し始めたものです。

昨年の 1 0 月に、熊谷市長選挙が行われましたが、私は、今回のマニフェストとして「信頼、誇り、笑顔」の 3 つの目標を掲げ、6 つの政策分野における 5 8 の施策の実行を市民の皆さんに約束し、当選させていただきました。その約束を果たすため、私は、これからの 4 年間で、このマニフェストを基に、「市民から信頼される行政」、「市民が誇りをもてるまちづくり」、「市民の笑顔があふれるまち熊谷」を目指して、全力で市政を運営していく考えです。

さて、古川さんの「生徒とのハートフル・ミーティングについて」の質問は、私のマニフェストで、「新ハートフル・ミーティングを実施します」と掲げた項目と同じハートフル・ミーティングの名称を使った提案をしてもらいました。

私は、平成 1 4 年 8 月、旧熊谷市の市長に就任以来、市民の皆さんの生の声を市政に反映させたいとの考えから、ハートフル・ミーティングを開催してきました。今までに、1 4 5 回開催し、延べ 7, 2 6 0 人の市民の皆さんに参加していただきました。

熊谷市では平成 2 0 年 6 月から、中学校卒業までの子ども医療費の無料化を始めましたが、ハートフル・ミーティングで市民の方からいただいた意見が始めるきっかけでした。

こうしたことから、中学生の皆さんと直接、会話をし、意見や提案も聞いたみたいので、ぜひとも、皆さんとのハートフル・ミーティングを実現させたいと思っています。すばらしい提案をいただけるよう、期待しています。

また、高野さんからの「市立女子高校跡地への学校誘致について」は、私のマニフェストの「市立女子高校跡地を生涯学習、教育、スポーツの場にします」の項目と同じ課題に対する解決方法を提案してもらいました。

これまでに、熊谷市では、いくつかの私立大学等との間で附属中学・高校一貫校の誘致の話し合いを行ってきました。しかし、現在の厳しい経済状況の中では、新しく学校をつくる費用を負担することが難しいので、具体的な話は、まとまりませんでした。

そこで、私は、たくさんの市民の皆さんが、いきいきと活動できる場所をつくろうと考えを転換し、新しいマニフェストでは、「市立女子高校跡地を生涯学習、教育、スポーツの場にします。」といたしました。

今回のマニフェストは、高野（たかの）さんの提案にあるように、学校を誘致することではありませんが、市立女子高校跡地については、高野さんが、部活動で体育館を使ったところ、とてもつかいやすかったということでもありますので、生徒の皆さんにも、学習やスポーツの場として、喜んでいただける施設にしていきたいと思っています。

○ 質問番号 2 番 総合政策部関係（市長答弁）

白根光議員さん、岡田桃花議員さん、田口翔太議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、担当部長からお答えします。

今、日本の国では、地方分権とか地域主権という議論が盛んに行われています。これからは、市の役割が大変重要になってきます。

こうした中、熊谷市には、全国に誇れるものが数多くあります。例えば、日本屈指のラグビー専用グラウンドである県営熊谷ラグビー場、本州一の収穫量を誇る麦類の生産、日本一の快晴日数、滑空時間・飛行回数が日本一の妻沼グライダー滑空場など、皆さんの知っているものもたくさんあります。これらは、先人たちが一生懸命築いてきたもので、熊谷の宝とも言えます。私は、この宝を大切にしながら、将来に向かって熊谷市をより発展させていきたいと考えています。

さて始めに、白根さんからは、熊谷のまちづくりについて、質問がありました。私は、熊谷市のまちづくりの目標を定めた総合振興計画を、平成 20 年 4 月から、新しくスタートさせました。この中で、目指すべき将来都市像を「川と川 環境共生都市 熊谷」と定め、荒川と利根川の流れとともに、市民一人ひとりが豊かな環境の中で誇りと希望を持って生き生きと生活している都市を目指しています。また、これまでも、市内各地域の熊谷の誇れる歴史、伝統、文化、自然など地域資源を活用したまちづくりを行ってきましたが、これからも、これらの魅力を高めながら、積極的に全国に発信していきたいと考えています。

次に、岡田さんからの、市町村合併についてですが、熊谷市は合併により、人口が 20 万人を超えたことから、国に申請をして、都市計画や環境保全などに関する多くの権限を移していただきました。これが特例市というもので、都市のイメージアップ効果を始め、市民サービスの向上を図ることができたと考えています。

また、合併の具体的な成果としては、最近の 4 年間で進めた行財政改革により、190 人を超える職員を減らし、22 億 9 千万円の人件費を削減するとともに、市の借金にあたる市債を約 118 億円減らすことができました。これからも、さらに行財政改革を進めながら、魅力あふれるまちづくりをしていきたいと思っています。

次に、田口さんからは、インバーカーギル市との交流について質問がありました。インバーカーギル市とは、外務省およびニュージーランド大使館から、熊谷市に対し、姉妹都市に関する照会があったことがきっかけとなり、昭和 63 年から、交流が始まりました。その後、平成 5 年に、姉妹都市の提携を結び、現在まで、市民レベルのさまざまな交流が行われています。早くから、外国の文化に触れ、国際社会の一員としての自覚を持つことは、21 世紀を担う皆さんにとって、とても大切なことです。それは、熊谷市を見つめ直すことにもつながります。

白根さん、岡田さん、田口さんには、生まれ育った熊谷市を大切にしながら、世界に羽ばたく国際人になってほしいと思います。

議席番号 14 番 中条中学校 白根 光 議員

熊谷のまちづくりについて（部長答弁）

白根光議員さんの「熊谷のまちづくりについて」にお答えします。

熊谷市では、これまでラグビーによるさまざまな取り組みを行うことにより、全国的に「ラグビータウン熊谷」としての知名度が定着してきました。

「継続は力なり」とは、まさにこのことであると考えています。

また、まちづくりの目標を定めた総合振興計画の基本計画の一つに、「魅力ある郷土を誇れるまち」を掲げ、全国に発信できる特色づくりや、歴史再発見のまちを推進しています。これまでも、熊谷市には「ラグビー」のほか「さくら」「まつり」「星川」をキーワードに取り組んできたイメージアップ事業に加えて、白根さんも御存知の かき氷「雪くま」、熊谷産の麦を生かした「熊谷うどん」が好評を博しています。伝統の力を生かして「熊谷染」「五家宝」「いなり寿司」などの名産とあわせて積極的に宣伝していきたいと考えています。

また、熊谷市には「歓喜院聖天堂」「グライダー」「荻野吟子」「ホテル」をはじめ、歴史、伝統、文化、自然を生かしたさまざまな地域の資源があります。それぞれが全国に誇れる「宝物」といえるものです。それらの特色ある地域資源に関する情報を、市報や市のホームページ、パンフレットで広くお知らせしています。熊谷のまちのブランドもイメージも人の情熱が創るものです。今後も、熊谷の魅力を高め、市民が誇りを持てる まちづくりを進めていきたいと考えています。

議席番号 19 番 三尻中学校 岡田 桃花 議員

市町村合併について（部長答弁）

岡田 桃花議員さんの「市町村合併について」にお答えします。

合併は、究極の行財政改革とも言われ、最大のメリットとしては、規模の拡大により、行政にかかるコストを下げながら、市民サービスの向上を図れることがあります。熊谷市においては、市の職員を減らすことによる人件費の削減や合併に伴う国の財政支援などにより、子育て支援の充実、環境問題への対応、道路や公園の整備など、さまざまな市民サービスの向上を図ることができました。

また、メリットの一つとして、長い歴史の中で培ってきた伝統・文化などの地域資源を、市民 20 万人で共有することができ、将来に向け大きな可能性をもつことができたと考えています。

一方、合併のデメリットとして、一般的に、住民の声が行政に届きにくくなったり、行政サービスの水準が低下したりするなどの指摘がありますが、熊谷市では、市民の皆さんが思ったことを市長に伝えるための市長へのメールのほか、市民の皆さんの声を市政に反映させるため、主に休日を利用したハートフル・ミーティングなどを実施しています。これからも、こうした取り組みにより、2 度の合併によるスケールメリットを最大限生かし、未来に向けて「誇れる郷土・熊谷」を創っていききたいと考えています。

議席番号 21 番 奈良中学校 田口 翔太 議員

インバーカーギル市との国際交流について（部長答弁）

田口翔太議員さんの「インバーカーギル市との国際交流について」にお答えします。

日本の都市との交流を希望していたインバーカーギル市では、市長さんが、姉妹都市調査のため、昭和 63 年の秋に熊谷市を訪れました。その後、両市の間では、数回の視察が重ねられ、学生間の教育交流やスポーツ交流等も行われました。

インバーカーギル市は、すぐれた文化、教育、伝統のある都市であり、ラグビーに力を入れていることなど、熊谷市との共通点があり、人柄も素朴で、永続性のある交流が期待できました。こうしたことから、平成 5 年に、インバーカーギル市との姉妹都市の提携を行いました。

中学生が交流する機会につきましては、熊谷市国際交流協会では、平成 5 年から毎年、中高生ホームステイツアーを実施しており、平成 20 年度は 22 名が参加し、そのうち中学生は 13 名で、これまでに 150 名以上の中学生がインバーカーギル市での生活を体験しています。

また、市内の 3 つの高校が、インバーカーギル市の高校と姉妹校提携をし、生徒の相互派遣を行っています。昨年は、この派遣で熊谷市を訪れたインバーカーギル市の高校生が、大麻生中学校を訪問し、生徒会の皆さんと給食を食べながら友好を深めました。こうした機会は、中学生の皆さんが国際感覚を身に着ける貴重な場であり、これからも実施していきたいと考えています。

○ 質問番号3番 市民部関係（市長答弁）

吉野絵美議員さん、森下雄太議員さんの質問に私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

始めに、吉野さんの「街灯の増設について」ですが、熊谷市では、市民が安心して暮らせる街づくりを目指し、様々な取り組みを行っています。

犯罪防止目的の街灯を防犯灯と呼びますが、これらの設置も取り組みの一つです。設置については、主に地域の自治会にお願いし、熊谷市としては、設置費用に対し補助金を交付する方法で、支援していますので、まずは保護者の方をお願いしてください。

次に、森下さんの「交通事故対策について」ですが、熊谷市では熊谷警察署や交通安全の活動をしている団体と連携を図り、交通事故防止のため、街頭啓発活動の実施や交通指導員の派遣及び交通安全教室の開催などを通し、交通マナーの徹底や交通安全思想の普及に取り組んでいます。

本石で起きた小学生の死亡事故では、警察の捜査が継続中ですが、一日も早く犯人が見つかることを望んでいます。

又、熊谷市は2年連続で飲酒運転の重大死亡事故が発生していることから、飲食店などと協力し飲酒運転対策検討会で、飲酒運転の防止に向けた啓発活動を積極的に進めています。

議席番号13番 中条中学校 吉野 絵美 議員

街灯の増設について（部長答弁）

吉野絵美議員さんの「街灯の増設について」にお答えします。

市民の安心で安全な生活を目指した取り組みの一つとして、熊谷市では、防犯灯の設置を行っています。

現在、市内全体では約1万5千基の防犯灯が設置されています。設置については、原則として近隣の生活環境を良く知っている地域の自治会にお願いをし、熊谷市としては、設置費用の2分の1を限度に補助金を交付しています。例外として、自治会での設置ができない通学路で沿線に民家などが無い場所や、教育委員会から要望された緊急性の高い場所については、熊谷市で設置することもあります。自治会と市の設置を合せると、毎年3百基前後の防犯灯を設置しています。

登下校時に暗くて危険と感じる場所などは、できる限り無くす必要がありますので、保護者や地域自治会の班長さんを通して防犯灯の設置について、相談してください。

防犯灯が設置された道路は、高い防犯効果を発揮する反面、これに頼り過ぎることは危険なため、出来る限り下校時は、友達と一緒に行動したり、夜間は危険と感じる場所は避ける必要もあります。自分に降りかかる危険を未然に防ぐことも、大切なことと考えています。

議席番号 18 番 別府中学校 森下 雄太 議員

交通事故対策について（部長答弁）

森下雄太議員さんの「交通事故対策について」にお答えします。

熊谷市では、交通事故を防止するため、様々な対策に取り組んでいます。その主な取り組みとしては、熊谷警察署と連携して、幼稚園や保育園、小中学校や公民館などで、交通安全教室を開催すると共に、交通安全の活動をしている団体と協力して、駅前や繁華街などで交通安全を呼びかける啓発活動にも積極的に取り組んでいます。

市内小学校の通学路の要所には、交通指導員を派遣して、立哨指導を行うほか、市内の主要な行事に対しても、指導員を派遣しています。また、自治会やPTAからの信号機設置などの要望を受けて、関係機関へ伝えています。

現在、市内の交通事故状況は、平成21年の人身事故が1,293件あり、前年と比べて161件減少しましたが、死亡犠牲者は、14人で前年と同じ人数となっています。熊谷市の人身事故の傾向は、原因別では脇見運転が65%、一時停止違反が11.5%、信号無視が4.7%、これらで8割を超える状況です。また、高齢者の事故が多いことも特徴です。

交通安全は市民共通の願いであり、これからも、交通安全対策について、積極的に取り組み交通事故の防止に努めていきます。

質問番号 4 番 福祉部関係（市長答弁）

小倉燿議員さん、小林知夏議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

小倉さんから、子育て中のお母さん、お父さん方への支援について、質問をいただきました。国では、中学校卒業までの方を対象に支給される「子ども手当」について議論されていることは、小倉さんも耳にしたことがあると思います。熊谷市でも、こども医療費の助成の対象を中学生まで拡大するなど、子育て中の家庭の負担が減るようにしています。

そういった支援のほかにも、大事なことがあります。お母さん方が子どもを生み、育てていく中で、子育ての不安をやわらげることができるように、お母さん方が家の外に出て、ほかのお母さん方とお話しをして気分転換したり、友達をつくったりできる環境づくりです。これからも、様々な子育て支援を行い、子どもたちの元気な声や姿が満ち溢れたまちを目指したいと考えています。

次に小林さんから、高齢者が健康で楽しく生活できる対策について、質問をいただきました。熊谷市では、5人に一人が65歳以上の高齢者という現状の中で、これまでは、老人福祉センターなどお年寄りのための施設を運営したり、老人クラブや敬老会などの各種団体への支援を行って来しました。

これからは、「ふれあい いきいきサロン」など皆さんの おじいさん や おばあさんが楽しく過ごせる場を増やしながら生涯にわたり、元気で、健康に暮らせるような対策を充実させていきたいと考えています。

議席番号 25 番 大里中学校 小倉 燿 議員

子育て支援について（部長答弁）

小倉燿議員さんの「子育て支援について」にお答えします。

熊谷市では、おとし6月から、こども医療費の通院にかかる助成の対象を、小学校入学前までから中学校卒業までに拡大しました。中学校卒業までを対象としているのは、埼玉県内40市の中で、2番目という状況でした。

そして、そうした医療費の助成のほかに、特に、3歳くらいまでの小さいお子さんを持つお母さん、お父さんが、気軽に集まれる居場所づくりを、中学校の学区ごとに1か所を目標に進めています。この場所のことを、子育て支援拠点といい、これまでに14か所整備しています。小倉さんが住んでいる大里中学校の学区内にも、大里保健センターの中に昨年の4月に「子育て広場にこここ」という名前でオープンしました。子育て支援拠点では、子どもたちは、おもちゃで遊んだり、自由に走り回ったりしています。お母さん方は、ほかのお母さん方と育児の情報交換をしたりして、「ママ友」の輪を広げています。

こうした場を提供することによって、子育てに対する不安や悩みの解消のお手伝いをするこども、これからの子育て支援では重要であると考えています。

今、市内には17の中学校がありますので、残り3か所の子育て支援拠点

を新たに整備することが、現在の目標です。これからも、子育て支援策については、一步一步、着実に進めていきたいと考えています。

議席番号 32 番 小島中学校 小林 知夏 議員
高齢者福祉について（部長答弁）

小林知夏議員さんの「高齢者の福祉について」お答えします。

現在、熊谷市内の65歳以上の高齢者は、43,391人で、全人口の21.07%にあたり、5人に一人が高齢者です。そのうち、見守りが必要な一人暮らしの高齢者の方は、約2,300人です。

高齢者が健康で楽しく生活できるための対策として、まず、老人クラブの育成があります。市内の187の老人クラブでは、ゲートボール、グラウンドゴルフなどのスポーツのほか、芸能大会や趣味の作品展などの文化活動を行っています。

また、市内4箇所の老人福祉センターや3箇所の老人憩の家を運営したり、鍼灸マッサージや、公衆浴場の入浴、保養施設の宿泊などに対して補助を行い、健康の増進を図っています。

さらに、長寿を祝う行事として、毎年9月に各地区で開催される敬老会に対して補助を行うとともに、77歳、88歳、99歳以上の方にお祝い金を差し上げています。

その他一人暮らしの方には、火災警報器などの日常生活用品やお昼の食事を提供したり、体が不自由になった場合には、介護保険制度による介護サービスを提供して、高齢者やそのご家族が安心して生活が出来るよう支援しています。

○ 質問番号5番 環境部関係（市長答弁）

山下未来議員さん、山本真佑議員さん、藤木志音美議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

熊谷市では、平成19年8月16日、岐阜県多治見市とともに40.9度を記録し、74年ぶりに国内最高気温を更新しました。これを契機に、市民の健康対策、地球温暖化やヒートアイランド対策、暑さ・快晴日数日本一などの気象特性に着目した資源活用策をまとめた、「あっぱれ！熊谷流」プロジェクトを進めてきました。テレビや新聞などに数多く登場したので、皆さんもご存知と思いますが、熊谷駅に設置した冷却ミスト装置や熱中症予防情報発信システムなどが、代表的な取り組みです。

鳩山首相は、地球温暖化の原因となる二酸化炭素などの温室効果ガスを、2020年までに、1990年と比べて25パーセント削減することを宣言しています。目標達成には、私たち一人ひとりの行動が、大変重要になってきます。

山下さんが学校で取り組んでいる「緑のカーテン」事業、山本さんが「エコ玉」の中で取り組んでいるエコ活動、そして、藤木さんの「私たち中学生が積極的に問題解決に取り組みたい」との考えを伺い、熊谷市そして日本の将来は、心配ないと確信しました。これからも熊谷らしい環境対策に力を入れて取り組んでいきますので、皆さんの一層のご協力をお願いします。

議席番号8番 熊谷東中学校 山下 未来 議員 環境保護の取り組みについて（部長答弁）

山下未来議員さんの「環境保護の取り組み・環境に配慮した暑さ対策について」にお答えします。

熊谷市の暑さは、全国的に有名ですが、環境に配慮した身近な暑さ対策の一つとして、山下さんの学校でも取り組んでいる「緑のカーテン」の普及を進めています。

また、熊谷駅前広場に設置した冷却ミストは、細かい水滴を噴霧することにより、周辺の気温を下げるものですが、先進的な取り組みとして、他の自治体からも注目されています。実際にミストの当たる所と当たらない所の気温を測定した結果、2度から3度の低下が確認されています。

さらに、今年度からは風呂の残り湯などを路面にまき、周辺を冷やす「打ち水大作戦」という環境イベントに取り組み、熊谷駅東口をはじめとする中心市街地5箇所で「打ち水」を行いました。八木橋百貨店前では、およそ2度の気温の低下が確認されています。

これらは、どちらも水の気化熱が気温を下げるという性質を上手に利用した、電気等を使用しない、あるいは、少ない使用量ですむ、環境にやさしい暑さ対策であると考えています。

今後は、このような取り組みを、多くの市民に広げるとともに、より環境に配慮した暑さ対策を検討していきたいと考えています。山下さんも、良いアイデアがありましたら、ぜひ、情報提供をしてくださるようお願いします。

議席番号１０番 玉井中学校 山本 真佑 議員

エコ活動について（部長答弁）

続きまして、山本真祐議員さんの「エコ活動について」にお答えします。
熊谷市でも山本さんの通う玉井中学校と同様な取組みをしています。

例えば、昼休みには必要のない照明を消すといった節電や、毎月第一水曜日のノーカーデーには、自家用車の代わりに、公共交通機関や自転車などで通勤する取組みを推進しています。

また、市役所の仕事に使う自動車を省エネルギー、クリーンエネルギーの天然ガス自動車に買い換えたり、市役所の仕事から発生する不用な紙は分別を徹底して、再資源化しています。

さらに、「分ければ資源、捨てればゴミ」を実践する年２回のリサイクルフェアは、毎回多くの市民にご参加をいただいていますし、「エコ玉」と同様にマイバッグの持参でレジ袋を削減して、製造の際のエネルギー消費や焼却でのＣＯ２の削減を目指す「熊谷市レジ袋削減キャンペーン」も行なっています。そのほかにも、家庭や職場の緑化をはじめ省エネルギー自動車等への転換、太陽光発電システムやエコ・キュートなどの補助制度による自然エネルギー等の利用推進など、さまざまな取組みをしています。

また、くまがやエコライフフェアの開催や、「市報くまがや」に標語の掲載等を通して、広く市民に省エネルギーや、ＣＯ２の削減を呼びかけています。

議席番号２２番 奈良中学校 藤木 志音美 議員

私たちのできる暑さ対策について（部長答弁）

続きまして、藤木志音美議員さんの「私たちのできる暑さ対策について」にお答えします。

熊谷市の暑さは、藤木さんの質問の中にありました ヒートアイランド現象が原因の一つと言われています。このヒートアイランド現象は、自動車やエアコンなどから排出される熱や、太陽で熱せられたコンクリートやアスファルトの熱などが原因とされています。

熊谷市では、ヒートアイランド現象による夏の暑さを解消するため鎌倉町通りや駅西通りなどを路面温度の上昇を抑えるアスファルトで舗装することや、市有施設に緑のカーテンを設置するなどの対策をとってきました。

皆さんが身近にできるヒートアイランド対策としては、エアコンを適正温度に設定して室外機から排出される熱を抑えること、自宅に緑のカーテンを作り建物が吸収する太陽の熱を抑えること、朝・夕にお風呂の残り湯などを利用して打ち水を行うことなどがあげられます。

ヒートアイランド対策は、地球温暖化対策にも つながりますので、ぜひ、藤木さんも家族や友人と小さなことからコツコツと行動に移してくださるようお願いいたします。

○ 質問番号 6 番 環境部関係（市長答弁）

増田浩明議員さん、善元祥次郎議員さん、青柳里紗議員さんからの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

私たちの生活環境を守るためには、今までごみとして捨てていたものを、これからは、資源として繰り返し使うことが大切です。

こうした中、熊谷市では、平成 20 年度にこれからの廃棄物行政の方向を位置づけた「熊谷市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」を策定しました。計画では、「3R」、3Rとは、リデュース（ごみの発生を減らすこと）、リユース（繰り返し使うこと）、及び、リサイクル（資源として再び利用すること）の頭文字であるRをとったものですが、この「3Rを基本とした循環型社会の構築」を基本の考え方とし、さまざまな施策を実施しながら、市民・事業者と協働してごみの減量を図っていくこととしております。

最近のごみ排出量は、平成 19 年度では、熊谷市民一人一日当たり、1,149 グラムで、埼玉県平均の 962 グラムを上回っていますが、平成 17 年度をピークに毎年減少しています。

このような中、増田さんの「ごみの山をなくしたい」、善元さんの「ごみの散乱を防止したい」そして、青柳さんの「ごみのポイ捨て防止のため、マナーの啓発が必要である」との思いが、これからの廃棄物行政を進展させる原動力となるものと確信しています。皆さんも、身近にできることから、ごみの減量化に一層のご協力をお願いします。

議席番号 28 番 妻沼東中学校 増田 浩明 議員 廃棄物の山の撤去について（部長答弁）

続きまして、増田浩明議員さんの「廃棄物の山の撤去について」お答えします。

廃棄物の山の撤去は、山を築いた原因者である、排出事業者や土地所有者の責任で行うべきものですが、莫大な費用がかかるため、お金がなかったり、協力してくれなかったり、あるいは、行方不明となっているなど、なかなか改善がされていません

また、産業廃棄物の山に隣接する箇所は、道路用地として県が買収していないことから、道路幅が狭く、危険防止のため、柵がしてあります。その柵内の廃棄物については、市が県に協力して、年数回ごみの撤去を行っています。

これからも、産業廃棄物に関する指導機関である埼玉県北部環境管理事務所と連絡をとりながら、監視パトロールを実施し、県が行う撤去指導等の対策に積極的に協力していきたいと思います。

産業廃棄物は、一度投棄されてしまうと撤去されにくく、ごみのごみを呼ぶという現象を引き起こすこともありますので、増田さんも、通学途中に廃棄物の不法投棄等を見かけましたら、学校の先生を通じて、市役所まで連絡していただきたいと思います。

議席番号 30 番 妻沼西中学校 善元 祥次郎 議員

集積所のごみについて（部長答弁）

次に、善元祥次郎議員さんの「集積所のごみについて」お答えします。

現在、週 2 回収集している、燃えるごみの収集回数を増やすことは、ごみを排出する機会を増やすことから、逆に、ごみが増加する要因となります。

収集回数を増やすのではなく、できるだけごみを出さない意識と工夫を持っていただくことで、ごみを減らすとともに、ごみが道路にあふれてしまうことを防ぐことができます。

また、しっかりとした入れ物を集積所に設置した場合、カラスの被害は防げたとしても、利用される方々が、「ごみは、決められた日の朝 8 時 30 分までに、決められたものだけを出す」というルールを守らなければ、常に、ごみが集積所に出ている状況となり、集積所付近にお住まいの方々にご迷惑をかけることとなります。

集積所をきれいに保つためには、市民一人ひとりがルールを守ってごみを出すことが重要であると考えています。ごみの出し方はもちろんのこと、ごみの減量にも、なお一層のご協力がいただけますよう、引き続き市民の皆さんに啓発をしていきたいと思ひます。

議席番号 31 番 小島中学校 青柳 里沙 議員

ごみのポイ捨て防止について（部長答弁）

次に、青柳理紗議員さんの「ごみのポイ捨て防止について」お答えします。

熊谷市では、ごみの排出マナー向上のため、くらしのカレンダーやごみ分別マニュアル等を各家庭に配布し、家庭ごみの出し方やごみの分別の仕方をお知らせしています。

また、ごみに関する情報を市報やホームページに掲載するとともに、不法投棄禁止看板の設置等により、注意を呼びかけています。

一方、自治会から推薦された環境美化推進員さんが、各地域のごみ集積所の見回りやごみの分別・減量等で活躍しております。日頃から、街をきれいに保ち、ごみを捨てにくくする環境を作るためには、市民の皆さんの協力が必要です。これからも、ごみをポイ捨てしないで持ち帰るという意識を、市民の皆さんに持っていただけるように、引き続き啓発を行っていききたいと思ひます。

○ 質問番号 7 番 都市整備部関係（市長答弁）

濱永匠議員さん、工藤成史議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

埼玉県では、「緑豊かな埼玉」を次世代に残すため、みんなで 1 本ずつ木を植えていく、「710 万県民 1 人 1 本運動」を進めています。

濱永さんから質問の熊谷市の緑化活動ですが、平成 18 年 7 月に熊谷スポーツ文化公園に「ふるさとの森づくり」として 1 万本の植樹を行い、その後、平成 20 年 11 月に熊谷さくら運動公園にて、約 5,000 本の植樹を行いました。

それぞれの森を育てるために、除草や肥料を与える作業を皆さんと行うなかで、木を植えて育てることの素晴らしさを改めて実感しました。また緑化事業は、地球温暖化対策として効果的と考えますので、これからも皆さんと一緒に、取り組んでいきたいと考えています。

次に、工藤さんの「熊谷駅周辺の整備について」ですが、現在、JR 熊谷駅の 1 日あたりの乗降客は、7 万人を超え、毎日たくさんの人や車が利用しています。

そのため、熊谷市では、駅前広場を安心・安全に利用できる方法について考えています。なお、駅周辺の防犯対策として、防犯センター安心館や防犯カメラなど設置しました。また、地域の皆さんが中心となって防犯パトロール活動を行っていますが、このような活動を地域で継続していくことも大切なことと思います。

議席番号 9 番 玉井中学校 濱永 匠 議員

緑化活動について（部長答弁）

濱永匠議員さんの「緑化活動について」にお答えします。

熊谷市では、数々の緑化推進事業に取り組んでいます。

はじめに、「あっぱれ！熊谷流ふるさとの森づくり事業」ですが、平成 20 年 11 月に熊谷さくら運動公園において、市民と協働の森づくりを実施しており、今後も継続して取り組んでいきます。

また「人生記念樹事業」は、人生の節目となる入学や成人、結婚などの記念に家庭植樹の苗を配布するもので、21 年度は 127 件の申し込みがありました。

次に「みどりのカーテン推進事業」は、家庭で壁面緑化に取り組んでいたくためにアサガオの種をイベント時に、多くの皆さんに配布しています。また、「公園の芝生化事業」についても市民の皆さんと一緒に進めていきたいと考えています。

議席番号 26 番 大里中学校 工藤 成史 議員

熊谷駅周辺の再開発について（部長答弁）

次に工藤成史議員さんの「熊谷駅周辺の整備について」お答えします。

駅前広場は、平成 16 年の埼玉国体に合わせて、障害をお持ちの方や、お年寄りの方に安全に利用できるように歩道のバリアフリー化やスクランブル

交差点の整備を行ってきました。

現在、駅前広場には、バス、タクシーさらに、送迎用の自家用車が混雑している状況ですので、より安全で、安心して走行できる駅前広場のレイアウトについて検討を進めています。

○ 質問番号 8 番 産業新興部関係（市長答弁）

新井雅章議員さん、富田美咲議員さん、宮澤麻耶議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

新井さんの質問の「地域振興券の発売について」は、昨年５月に、定額給付金の給付時期に合わせ１０％のプレミアムの付いた総額８億８千万円の県内最大規模となる「熊谷市商品券」を発売しました。その後３ヶ月あまり、市内の商店をはじめ各種事業所で使われ、市内の消費拡大と経済活性化に寄与し、大きな経済波及効果があったものと考えています。

富田さんの質問の「中心市街地の活性化について」は、古くから県北の中心地として栄えて来た熊谷市の中心市街地も、郊外大型店の進出などにより、徐々に以前のにぎやかさが失われて来ています。中心市街地の空洞化は、全国的な問題であることから、国も中心市街地活性化法という法律を作って、活性化の仕組みづくりを行なっていて、熊谷市も、この法律に基づいた計画を、現在作っているところです。

宮澤さんの質問の「雇用対策について」は、一昨年からの世界規模での不況の影響が、雇用にも及び、大変厳しい状況が続いております。こうしたことから、熊谷市としては、国の雇用創出基金事業を活用し、直接、雇用を生み出すとともに、国や県の関係部署や熊谷商工会議所などの諸団体とともに、相談会やセミナーの開催などを実施し、求職者の雇用を支援しています。

議席番号 1 番 荒川中学校 新井 雅章 議員 地域振興券の発売について（部長答弁）

新井雅章議員さんの「地域振興券の発売について」にお答えします。

商品券につきましては、５月１５日の金曜日に販売を開始しましたが、予想を大きく上回り、即日完売となりました。このことは、販売方法に工夫が必要であったと考えておりますが、熊谷市の持つ経済力の高さを示すものであるととらえています。当面、商品券の販売予定はありませんが、今後とも市内経済の活性化のため創意工夫をこらした事業に取り組んでいきたいと考えています。

議席番号 2 番 荒川中学校 富田 美咲 議員 中心市街地の活性化について（部長答弁）

富田美咲議員さんの「中心市街地の活性化について」にお答えします。

中心市街地の活性化は、熊谷市のまちづくりの大きな課題でありますので、国からの各種の支援をいただきつつ中心市街地の活性化を目指して、現在、基本計画を作成しています。

熊谷市の中心市街地の特徴としては、熊谷駅周辺と本町・鎌倉町周辺とに２つの大きな核があり、その間を星川や国道１７号が人々の流れをつなげているので、その特徴を活かしたまちづくりを考えています。大切なのは、住む人や買い物をする人々が熊谷市にたくさんやって来て、多くの人たちが楽しく交流できるようにすることです。

そのために、高齢者などが歩きやすいように歩道を整備したり、空き店舗を活用した幅広い市民の交流を支援したり、商店街の皆さんが実施する各種イベントの開催を支援したりするなど、中心市街地でのにぎわいを生み出すような取り組みを進めています。

皆さんが大人になった時にも、中心市街地が活気に満ちた交流拠点として、にぎわいのあるまちになっているように、これからも様々なことに積極的に取り組んで行きたいと考えています。

議席番号5番 大原中学校 宮澤 麻耶 議員

雇用対策について（部長答弁）

宮澤麻耶議員さんの「雇用対策について」、お答えします。

熊谷地区の雇用情勢は昨年11月の統計を見ますと、10人の求職者に対して、3.6人分の仕事しかないという大変厳しい状況です。

そこで、熊谷市では、まず、国が地方自治体の雇用機会を創出する取り組みを支援するためにつくった「ふるさと雇用再生基金事業」並びに「緊急雇用創出基金事業」を積極的に活用し、新たな雇用の創出をはかっています。

具体的には、向こう3年間の雇用を想定した「ふるさと雇用再生基金事業」では、観光関連等2事業で、8人の雇用を、また、就業期間6ヶ月未満の短期の雇用を想定した「緊急雇用創出基金事業」では、福祉関連等の3事業で、30人の雇用を行っています。

そのほか、若者の雇用を支援するために、履歴書の書き方や面接の受け方などを学ぶ「就職力ステップアップ講座」「若者就職応援フェアin熊谷」等の講座の開催や高年齢者の就職機会の増大をはかるための「高年齢者就職支援セミナー」等を実施しています。

これからも、引き続き、国の基金事業を活用した雇用機会の増大と、熊谷公共職業安定所や埼玉県の関係機関、熊谷商工会議所などの諸団体と連携した雇用支援策に取り組んでいきたいと考えています。

○ 質問番号 9 番 産業振興部関係（市長答弁）

梅澤智議員さん、小林紗葉里議員さん、鈴木和仁議員さんの質問に私から全般的にお答えし、詳しくは担当部長からお答えします。

一昨年からの世界同時不況によって、私たちの地域経済も大きな影響を受けており、一部には回復の兆しが見える分野もあるようですが、まだ、混迷が続く様子です。景気をよくするためには、市内産業を発展させ、雇用を確保し、企業も個人も収入を増やすことが必要となります。そこで梅澤さんの「産業の活性化について」ですが、熊谷市では、企業の立地を支援する奨励金制度を条例で定め、既存企業の支援をはじめ積極的な企業誘致を進め、市内産業の振興に努めています。

市内企業の活力を高めていくことは、雇用の拡大や税収の確保に結びつき、市民生活の安定につながります。

次に小林さんの「景気対策について」ですが、中小企業の資金繰りを助けるために、通常より有利な熊谷市独自の緊急対策融資を実施し、利子の補助などを行っています。また、プレミアム付きの商品券を発行するなど国の緊急対策の交付金などを活用して多くの事業を実施して地元企業の活性化を図っています。

次に鈴木さんの「農業対策について」ですが、熊谷市の農業者は、65歳以上が68%を占めていて、高齢化が大変進んでいる状況です。

このため熊谷市では、後継者の育成、新たに農業を始める方への支援、共同して農作業などを行う集落営農組合の育成・強化を行っています。

議席番号 7 番 熊谷東中学校 梅澤 智 議員

産業の活性化について（部長答弁）

梅澤智議員さんの「産業の活性化について」にお答えします。

熊谷市には、熊谷工業団地、妻沼西部工業団地及び熊谷ミニ工業団地などが整備され、機械、電気、化学などの大手企業をはじめ、市全体で700を超える事業所が立地し、工業製品の出荷額は県内第4位の産業都市です。

現在、市では、産業の活性化を図るため、企業立地を支援する「熊谷市産業立地促進条例」を定めて積極的に企業誘致を進めています。この条例の対象となると、「事業所設置奨励金」として固定資産税相当額が3年間交付されます。また、「雇用促進奨励金」として一定の要件を満たした市民の新規の雇用1人につき30万円が交付されます。成果としては、平成18年度は4つの、19年度には5つの、20年度も5つの事業所が新たな立地や増設をして条例の対象となりました。企業活力が高まれば、消費や雇用の面でも非常に大きな効果が期待でき、さらに税収の確保にもつながります。

今後、電気自動車や太陽光発電などの環境に配慮した産業の発展が予想されます。このような動向を的確に捉えるとともに企業訪問を実施して企業のニーズの把握に努め、これからも時代に対応した事業に取り組んでいきたいと考えています。

議席番号 17 番 別府中学校 小林 紗葉里 議員

景気対策について（部長答弁）

小林紗葉里議員さんの「景気対策について」にお答えします。

長引く世界経済の不況の中で、地域経済も大変厳しい状況にあります。こうした状況を踏まえ、熊谷市では、平成20年の年末から、中小企業の方々の資金繰りを支援するために、緊急対策の融資を実施し、金融機関と協力して事業資金を貸し出しました。貸付から3年間、利子を半額補助するなど利用しやすくしたため、多くの方に申し込みいただき、6ヶ月余りで250件、約33億円の貸付を行ないました。そのほか融資制度全体を見直して、より使い勝手のよい制度に変えて、中小企業の資金需要に対応しています。

また、昨年5月には、市内の消費を喚起するため、定額給付金の支給に併せて、熊谷市商品券を熊谷市内外の方に販売しました。結果として、市外の方も含めて多くの方に熊谷市内で買い物をしていただくことができました。

さらに、国の緊急対策の交付金を活用して公共事業を行うことで、結果として地元の企業の仕事を増やし、経済が活性化するように努めています。また、熊谷の名物や観光名所などをPRすることで、多くの人に熊谷市に来てもらい、経済の振興を図る取り組みも行なっています

議席番号 23 番 大幡中学校 鈴木 和仁 議員

農業対策について（部長答弁）

鈴木和仁議員さんの「農業対策について」にお答えします。

農家の高齢化対策についてですが、熊谷市は、農家の高齢化対策、農地の維持対策として、集落営農組合という共同で農作業などを行なう組合を作っています。

現在、市内に27組合あります。熊谷市では、この集落営農組合が、新しく農業をしたい人を受け入れたり、農業ができなくなった人から、農地を借り受けたりすることができるよう、会社組織になるよう進めています。こうした取り組みにより活力ある農業を進めていきたいと考えています。

○ 質問番号 10 番 建設部関係（市長答弁）

長谷川 雄大議員さん、渡部 里歩議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、担当部長からお答えします。

少子高齢化、中心市街地の人口減少、地球温暖化が進む中で、必ずしも車に頼らなくても安心して暮らせるまちづくり、いわゆる「エコでコンパクトなまちづくり」への転換が求められています。

こうした中で、国道 17 号を中心とする熊谷駅周辺では、国、県、市が一体となりバリアフリー、自転車道、景観や環境に配慮した道路空間を造るため、昨年度から、「人と環境にやさしい道づくり」を基本的な考えとする整備計画の策定を進めています。

昨年秋の、国道 17 号を中心とする「自転車道等に関する社会実験」は、整備に向けた効果の確認や課題の把握を行い、今後の整備の方向性などを総合的に判断するため、実施したものです。

長谷川さんから質問のあった「自転車専用道路について」ですが、近年、歩道上での自転車に関連する事故が増えています。歩行者が、安心して通行できるような道路づくりを目指して、自転車道の設置については、この社会実験の結果をよく検討したいと思っています。

また、渡部さんから質問のあった「歩道橋のバリアフリー化」は、高齢者や障害者に配慮した道路にするうえで、大きな課題となっています。今回は、八木橋百貨店前の本石 2 丁目交差点と駅前の筑波交差点の 2 箇所の歩道橋について、歩行者と自転車の利用者を対象に歩道橋を利用せずに交差点を横断する社会実験を行いました。これらの社会実験の結果をよく検討して、これから皆さんが、安心して快適に利用できるようにして行きたいと考えています。

議席番号 33 番 江南中学校 長谷川 雄大 議員

自転車専用道路について（部長答弁）

初めに、長谷川 雄大議員さんの「自転車専用道路について」お答えします。近年、環境や健康に対する意識の向上などを背景にして、全国的に自転車の利用ニーズが、高まっています。

この一方で、自転車を利用する環境は、安全性や利便性に多くの課題を抱えており自転車と歩行者が接触する事故が、増加しています。

こうした中で、熊谷市は、平成 20 年 1 月に、全国 98 箇所の一つとして、県道太田熊谷線、国道 17 号、市役所通線などを含む熊谷駅周辺が、自転車通行環境整備のモデル地区に指定されました。

自転車は、環境にやさしい乗物として、地球温暖化防止の考えからも注目されています。自転車の利用しやすい環境を整備して、自動車から自転車へ移動手段を変えることは、人や環境を中心に考えた新たなまちづくりに取り組むうえで、有効な方法の一つであると考えています。

現在、社会実験で行った交通量調査やアンケート調査の結果の取りまとめを行っていますので、この結果などをよく検討して、自転車道の整備について、市民の皆さんの理解を得ながら、進めて行きたいと考えています。

議席番号 34 番 江南中学校 渡部 里歩 議員

歩道橋のバリアフリー化について（部長答弁）

次に、渡部 里歩議員さんの「歩道橋のバリアフリー化について」お答えします。

熊谷市は、平成 14 年 3 月に、熊谷市交通バリアフリー基本構想を策定し、熊谷駅や籠原駅の構内や周辺道路を中心に、バリアフリー化を行ってきました。

歩道橋は、通学路の安全を確保するために、昭和 40 年代に多く建設されましたが、階段型の歩道橋は、高齢社会を迎える中、高齢者や障害者への配慮からも大きな問題となっており、交通量の減少や老朽化に応じて、撤去される傾向にあります。

特に、八木橋百貨店前の本石 2 丁目交差点や駅前の筑波交差点の歩道橋は、熊谷駅周辺のバリアフリー化を進めるうえで、大きな課題となっていますが、この歩道橋をスロープ型にするためには、新たな土地が必要となります。このため、撤去を想定して、歩道橋を利用せずに交差点を横断する社会実験を行ったところです。

現在、交通量調査やアンケート調査の集計作業を進めていますので、これらの結果をもとに、歩道橋が設置されている交差点のバリアフリー整備を検討して行きたいと考えています。

○ 質問番号 11 番 教育委員会関係（市長答弁）

田島俊貴議員さん、長谷部有香議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、教育長からお答えします。

まず、田島さんの「学校施設・設備の充実」についてですが、皆さんが、安全で、快適な学校生活が送れるように、市では、毎年、さまざまな事業に取り組んでいます。最近では、屋内運動場の改築、校舎の地震補強工事などを行っています。今年度は、国の交付金を活用して、全校に大型デジタルテレビを1台ずつ設置するほか、全校の理科教材を充実させるための予算を計上しています。このように、さまざまな事業がありますが、先日、海外で、地震によって大きな被害が発生したように、学校施設の安全が第一ですので、今は、地震対策事業を最優先で取り組んでいきたいと思います。

次に、長谷部さんの「学校での雨水利用」については、「環境にやさしい行動ができないか」と一人一人が考えることは、とても大切なことだと思います。一人一人の力は小さくても、多くの人たちが力を合わせることで、地球レベルの結果をもたらすことも可能となるかも知れません。身近な雨水を有効活用していくことは、地球の貴重な水資源を大切にすることでもありますので、引き続き、学校単位で積極的に取り組んでほしいと思います。

議席番号 11 番 大麻生中学校 田島 俊貴 議員

学校施設・設備の充実について（教育長答弁）

まず、田島俊貴議員さんの「学校施設・設備の充実」についてお答えします。市長さんがお話したように、市では、屋内運動場の改築や、校舎の地震補強工事を行なうほか、学校図書館へのエアコンの設置、普通教室への扇風機や加湿器の設置、学校図書館の図書の実施なども行っています。

大麻生中学校では、去年、屋内運動場を改築し、これに伴って校庭のテニスコートを新しくしました。限られた収入の中で、老朽化が進んだ施設の補修などに取り組みながら、安全で、快適な学校づくりに、毎年、教育委員会も努力していきます。ですから、皆さんは、新しい屋内運動場などを有効に活用して、楽しい学校生活が送れるよう心がけてください。

議席番号 12 番 大麻生中学校 長谷部 有香 議員

学校での雨水利用について（教育長答弁）

次に、長谷部有香議員さんの「学校での雨水利用」についてお答えします。

各学校で雨水を有効に利用することは、簡単なことのようにですが、節水対策、また、貴重な水資源の大切さを知るうえで、とても重要な役割があると思います。さらに、このように各学校で、雨水を有効に活用して、学校緑化にも生かしていく取組は、地球温暖化防止対策にもつながることだと思いますので、引き続き、積極的に活用してください。そこで、雨水タンクを増やしたいということですが、学校緑化の一助にもなると思いますので、学校から要望があれば、そうした学校には、予算の範囲内で対応したいと思います。

○ 質問番号 12 番 教育委員会関係（市長答弁）

増山有也議員さん、内田菜々子議員さん、新井伶央名議員さんの質問に、私から全般的にお答えし、詳しくは、教育長からお答えします。

皆さんからの質問には、自分たちの学校だけでなく、熊谷市全体のことを考え、有意義な学校生活を送りたいという前向きな気持ちがあらわれていて、市長として大変心強く感じました。

増山さんの「学校間の情報交換」については、私も、市内各所で市民の皆様とひざを交え、自由に語り合う「ハートフル・ミーティング」を続けてきましたので、情報交換を行うことの大切さを実感しています。皆さんでアイデアを出し合い、学校間の情報交換を計画できると素晴らしいと思います。

内田さんの「新型インフルエンザ対策」については、これからも、流行拡大の可能性があります。昨年 11 月に、各教室に加湿器を設置いたしましたので、うがい・手洗いなどの予防対策に努めてください。また、皆さんにとって、かげがえのない学校行事が成功のうちに終わりますよう、他校の工夫を参考にするなど、しっかりとした対策をお願いします。

新井さんの「昼休みの消灯」については、環境に対する意識を高める上で、とてもよい提案だと思います。学校で取り組んだ成果を、市内の学校にも、ぜひ広めてください。また、家庭や地域において、環境問題を考えるきっかけにもして欲しいです。

私も、皆さんの前向きな気持ちに答えて、学校生活をより一層充実させることのできる取組をしっかりと進めていきますので、皆さんも、大いに、勉強に運動に頑張ってください。

議席番号 3 番 富士見中学校 増山 有也 議員

学校間の情報交換について（教育長答弁）

増山有也議員さんの「学校間の情報交換について」お答えします。増山さんたちが、活気に満ちた学校づくりのために進めている昼休みの全校放送は、たいへん有意義であると考えますので、これからもぜひ続けてほしいと思います。

市内の学校からは、他にも、家庭や地域と一体となって取り組んでいる、あいさつ運動や、交流活動、環境保全活動など、特色ある取組がたくさん報告されていますが、どれも大切だと思います。

こうした取組を中学生同士が紹介し合い、お互いの学校の優れた実践を取り入れられれば、より良い学校になると思います。すべての学校の代表者が集まり、情報交換をする場を設定する例としては、活動の様子を記載した生徒会新聞などを作って交換したり、学校のウェブサイトなどに掲載して、電子メールで意見を出し合ったりするようなことが、あげられると思います。ぜひ、生徒の皆さんでアイデアを出し合い、計画してみてください。私たち教育委員会も大いに応援したいと思っています。

議席番号4番 富士見中学校 内田 菜々子 議員

学校の新型インフルエンザ対策について（教育長答弁）

内田菜々子議員さんの「学校の新型インフルエンザ対策について」にお答えします。

今年度は新型インフルエンザが大流行し、熊谷市だけでなく、全国的に学級や学年、学校閉鎖になるなど猛威をふるい、多くの学校で行事の中止や延期などの措置がとられました。

学校行事は、よりよい人間関係を築いたり、集団への所属感や連帯感を深めたり、協力してよりよい学校生活を築いたりするための大切な学習の一つです。

そこで各学校では、内田さんの学校のように音楽祭を学年別に行う、期日を変更する、実施時間を短縮する、1日5時間授業のところを6時間授業にして学校行事を行う時間を確保する、などの各学校の状況に応じて工夫をしています。内田さんが心配されているように、今後も新型インフルエンザが流行することが考えられます。

すべては健康から始まります。一人一人が「手洗いやうがい」、「加湿器の活用」はもとより、「朝ごはんをしっかり食べる」などの実践を行い、心身ともに元気に学校行事に取り組み、ぜひ成功させてください。

議席番号15番 吉岡中学校 新井 伶央名 議員

学校での昼休みの消灯について（教育長答弁）

新井伶央名議員さんの「学校での昼休みの消灯について」お答えします。

環境には国境線はなく、地域での環境問題は地球全体に広がっていきます。地域の環境が地球全体に影響していることを考えると、地域における取組は地球環境問題を考える基礎となります。

よく「地球規模で考え、地域で行動する」、あるいは、「地域で考え、地球規模で行動する」といわれるように、この両方を同じ問題としてとらえ、取り組んでいくことは大切なことです。

新井さんご指摘の無駄な電気を消すことは、大変素晴らしいことです。生徒一人一人の環境に対する意識も高まり、地球温暖化防止につながっていきます。学校生活を安全に過ごすためには、ある程度の明るさが必要となりますが、無駄な電気を消すことによって、自分たちの未来を明るくすることができます。

そこで、校内放送で呼びかけたり、生徒会が率先して給食の準備時間に校内をまわり、昼休み前から無駄な電気を消したりするなどの取組を示すことで一人一人の意識を高めていくことが大切だと考えます。

こうした学校での実践を家庭でも行うことで、環境に対する意識の日常化が図れると思います。是非、新井さんのように一人一人が日常生活の中での環境問題に積極的にかかわり、自分の生活と環境との関わり合いについての認識を深めつつ、自分たちでできることから取り組んでほしいと思います。

○ 質問番号 13 番 教育委員会関係（市長答弁）

山田健勝議員さん、細野修議員さん、大鷲美稀議員さん、神山友里恵議員さんの質問に私から全般的にお答えし、詳しくは教育長からお答えいたします。

はじめに山田さんの給食についてですが、学校給食は皆さんの心身の健全な発達や良い食習慣を養うため大切な役割をしています。

熊谷市では地元の野菜などを使った郷土料理や、季節の行事に合わせた献立を考え、工夫をし調理しています。大勢の人々の努力や自然の恵みに支えられている学校給食の大切さを知り、しっかり食べて学校生活のエネルギーにしてください。

次に細野さんのスポーツ振興についてですが、熊谷市は、平成18年7月に「スポーツ熱中都市宣言」を行い、だれもが元気に生き生きと生活できるまちづくりを目指しています。

熊谷市内にはすばらしい、スポーツ施設がたくさんあります。皆さんもこれらのスポーツ施設を有効に活用し、スポーツに関わる機会を広げながら大いにスポーツに親しんでください。

次に大鷲さんの人権の尊重についてですが、みなさんも、知っているように児童虐待やいじめなど、子どもの人権を脅かす問題が存在することは決して、許されるべきことではありません。ましてや、ここ数年来の「ネットワークいじめ」などは、絶対に許されないことであり早急に解決しなければならない問題であると考えています。

熊谷市としては、思いやりのある心豊かな人権尊重社会の実現を目指し、「人権尊重都市」とすることを宣言するとともにすべての市民がお互いの人権を尊重しながら共に生きる「人権尊重のまちづくり」の実現を目指しています。さらに、学校では、みなさんに自分や相手を大切にする態度を育てるなど人権教育の充実を進めています。続いて神山さんのAED講習についてですが、平成16年に法律が改正され、AEDは一般の方でも使用できるようになり、熊谷市でも各学校をはじめ、公共の施設には、すでに設置しています。中学生でも、いざという時のために、心肺蘇生法など応急手当の知識や技術を身につけておくことは大変意義あることだと考えています。

これからも、皆さんが応急手当の方法を積極的に学び、実践力を身につけていって欲しいと考えます。

議席番号 6 番 大原中学校 山田 健勝 議員

給食に地方の名物、郷土料理を取り入れることについて（教育長）

はじめに、山田健勝議員さんの「給食に地方の名物、郷土料理を取り入れることについて」にお答えします。

各地方の郷土料理を食べるということはその地域の優れた伝統的な食文化について関心を持ち、理解を深めることになると考えます。

現在、熊谷市の給食でも熊谷産の「地粉うどん」や「五家宝」のほかに熊谷産の長ネギを使った「直実汁」、荻野吟子にちなんだ、鮭の入った「吟子汁」

なども郷土料理として提供しています。 山田さんのご希望の熊谷市以外の各地の名物や郷土料理についても、実は行田市の「ゼリーフライ」、群馬県の「呉汁」や福岡県の「筑前煮」東京の「深川ご飯の具」なども取り入れています。

しかし、献立表に郷土料理の紹介が足りなかったため各地方の郷土料理を食べているという印象が薄いのではないかと考えています。今後は、皆さんにわかりやすく紹介するとともに郷土料理の回数も増やせるよう努力していきます。

議席番号20番 三尻中学校 細野 修 議員

スポーツ振興について（教育長答弁）

次に、細野修議員さんの「スポーツ振興について」にお答えします。

熊谷市では、「スポーツ熱中都市」をめざし、「実践」「応援」「協力」の3つの視点から市民一人一人の体力や年齢、目的に応じて生涯にわたってスポーツを楽しむことができるように、大きく2つの点からスポーツの振興を進めています。

1つは、スポーツにかかわる機会を提供することです。市内にあるさまざまなスポーツ施設や学校、公園などを活用して、スポーツ教室や市民総合体育大会の開催や学校体育施設の開放などを行い、幅広くスポーツに取り組めるようにしています。

また、熊谷さくらマラソン大会やめぬま駅伝大会などのスポーツイベントを充実させ、こうした行事をとおして、参加者はもちろんのこと、ボランティアの方々の協力や沿道での声援など多くの人がスポーツにかかわれるようにしています。

さらに、県の施設ですが、熊谷スポーツ文化公園で、ラグビーやサッカー、陸上競技など一流のスポーツ選手の試合を観戦できる機会も増やしています。

2つめは、スポーツ関係の情報を提供することです。市報や熊谷市のホームページをとおして、市民のみなさんに大会やイベント、ウォーキングコースの紹介などスポーツの「実践」「応援」「協力」の情報の提供をしています。これからも、市民のみなさんがそれぞれの立場でスポーツに親しみ、明るく元気に生活できますように引き続き努力していきます。

議席番号27番 妻沼東中学校 大鷲 美稀 議員

人権の尊重について（教育長答弁）

次に大鷲さんの、人権の尊重についてですが、 児童虐待やいじめ、そして、ネットワークいじめを含めた人権に対する被害から、みなさんを守るために、各専門機関と連携を取り、対応しています。

特に、ネットワークいじめについては、県立総合教育センターのよい子の電話教育相談やけいさつ総合相談センターなどと連携し、「ネットワークいじめは犯罪である」という考えに立って、解決に努めています。更に、皆さんや皆さんの保護者に携帯電話等の正しい使い方のリーフレットを配り、ネッ

ト被害や犯罪防止を呼びかけています。と同時に、熊谷市の教育の中心であり皆さんも既に取り組んでいる熊谷の子どもたちは、これができます。「4つの実践」は、例えば、「友だちをたくさんつくる。」では、まず、「友達のよいところを認める」ことから始まります。つまり、「相手を認める心や態度」など皆さんの人権感覚も養っているのです。皆さん一人一人が「4つの実践」を身につけ自分の人権を守り、他の人の人権を守る人権感覚を磨いていけば、いじめなどは、なくなると考えています。

なお、熊谷市では「4つの実践」に加えて4月からテレビやゲーム、携帯電話やパソコンの時間を減らし、家族との会話や読書、予習・復習の時間を増やしていこうという「3減運動」を予定していますのでよろしくお願いします。

議席番号29番 妻沼西中学校 神山 友里恵 議員

学校でのAED講習について（教育長答弁）

次に、神山 友里恵 議員さんの「学校でのAED講習について」にお答えします。

中学校の保健体育の授業の中では、応急手当を学習します。その中で意識がない場合の手当として、気道確保や人工呼吸、心臓マッサージなど心肺蘇生法を取り上げています。AEDは、一般の方も特に講習を受けていなくても使用してもかまいません。

しかし、いざというときに冷静に対処できるように、正しい知識と技術を学ぶことは、とても大切なことであると私も考えています。

積極的な要望ですので、これからは学校においても、例えば部活動の部長や生徒会専門委員会などの生徒を対象にした講習会を計画的に実施できるようにしていきたいと思います。

ぜひ、このような機会を積極的に活用し、AEDの取り扱いを含めて応急手当の正しい知識と技術をさらに学んでください。

最後に、神山さんの命を大切に作る心をこれからも、ずっと持ち続けて欲しいと思っています。